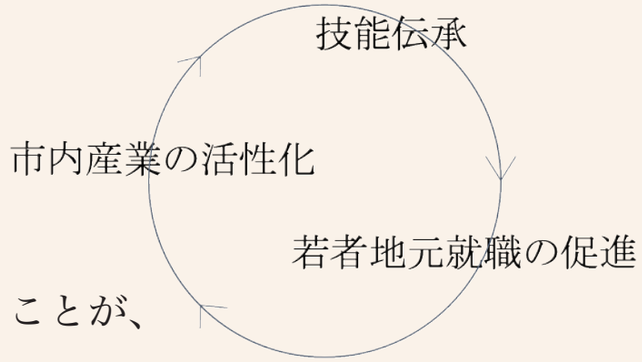
清水研究室
A20AB076 田辺有里奈

OVERLAP

「ものづくり」産業の社会問題である、技能伝承について着目し、東大阪の学生と熟練技術者の交流が自然と生まれ、ものづくりの好循環サイクルを動かす鍵となる建物を提案する

The background

ものづくり産業における技能伝承の現状と課題



〇熟練技術者の高齢化

熟練技術者の高齢化により、技能伝承がされないまま定年退職を迎えてしまい、労働力の減少やノウハウが継承されないことが問題となっている。

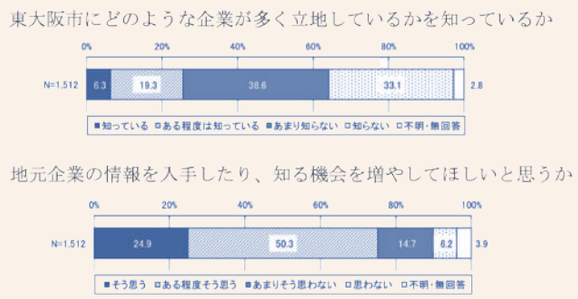
若者の地元就職の促進や、市内産業の活性化を通じて、若者が働き続けられるまちを形成していくことが、産業の活性化と人口維持の好循環サイクルを動かす鍵となる。

The Site

～東大阪、下町の技能伝承～

設計対象地域は、ものづくりのまちとして全国的に有名な大阪府東大阪市とする。「東大阪で作れないものはない」と言われているほど、日々の暮らしから世界最先端技術まで、幅広い技術が集積するが、町工場など従業員数 20 人未満の企業が約 9 割を占めている中小企業のまちである。東大阪市近隣の大学に在学する大学生を対象とした就職に関するアンケート調査では、東大阪の企業についての知識は少ないが、興味はある学生が約75%以上であった。同アンケートより、東大阪市内に居住する学生の多くは市外出身者であるため、これら若者が町工場など市内企業へ就職することの促進を目指す。

東大阪市近隣の大学に在学する大学生を対象としたアンケート調査



興味はある

情報収集方法がない

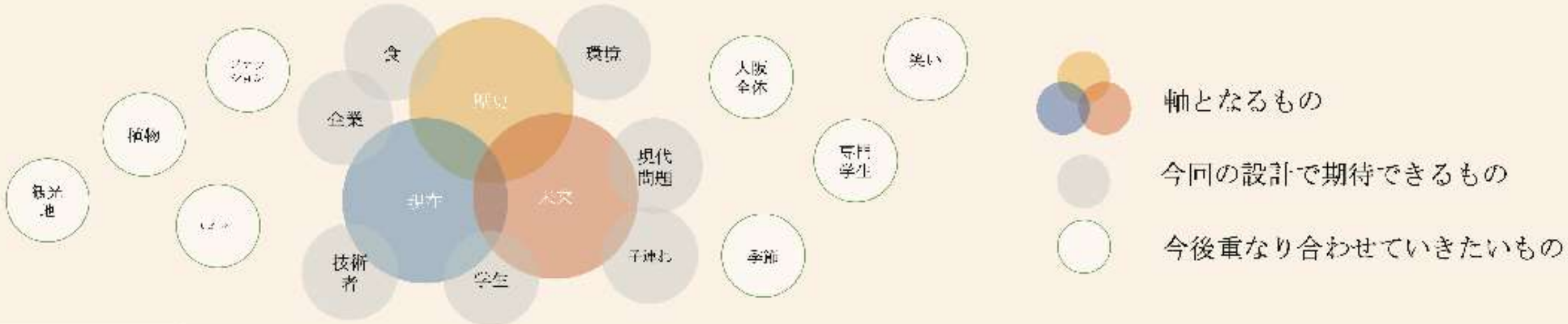
敷地周辺地図

敷地は、2029 年を開業目標として門真市から南への延 伸を予定している大阪モノレール荒本駅とする。この工事 により、鉄道ネットワークの利便性が向上するだけでなく、産業を活性化する新たな交流が生まれることが期待され る。この敷地には商業施設があり、地元住民から親しまれ た場所であったが、定期借用の契約満了に伴い現在は更地 となっている。敷地面積は約 22, 500m2 と、かなり大きく 周りには東大阪市役所や大阪府立中央図書館があり、東大 阪の中心とも言える。また、高速道路や環状線があるため、交通量も多い

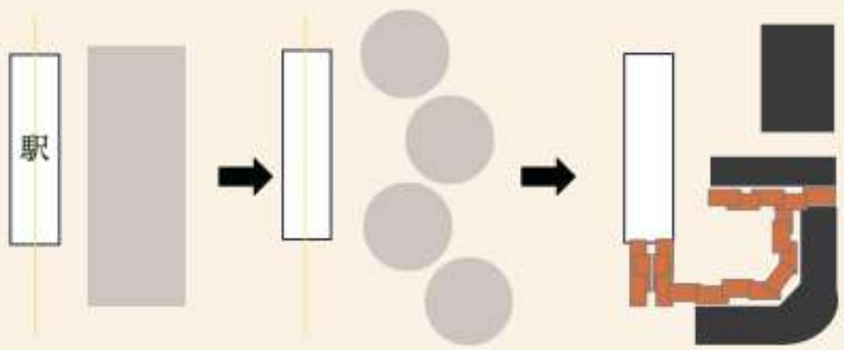
A suggestion

OVERLAP
重なり合う

下町の印象として、昔ながらの独特な雰囲気があり、温かみがあるが、活気が見えにくい。
文化の伝承者である「住み続ける人」と新しいコミュニティを重ね合わせ、次世代へと住み続けたいと思う町に。



A Diagram



駅、周りとのつながり

駅を利用した人が施設に入りやすいように建物のつながりを設置する。
人や車など南側の方が、流れが多く、北側に行くにつれて、下町の雰囲気に変わっていく。来訪者ごとに利用目的が違うことを考え、それぞれの役割に沿った建物を建て、さまざまな交流の場を提案する。人々が引き込まれる配置になるよう設計した結果、高架下がそのまま繋がった形にすることが最適であると考えた。

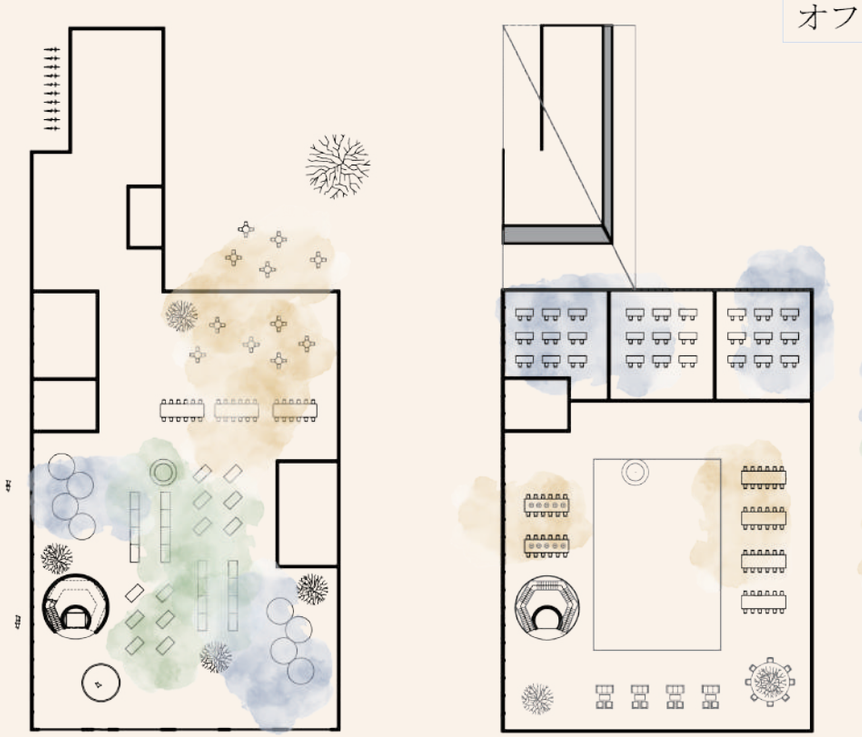
A Space proposal

〇コワーキングスペースとは

「Co（ともに）」と「Working（働く）」という二つの英語からできており、ともに働くという意味がある。

個人事業者や起業家、テレワークが許されている会社員、ノマドワーカーといった場所の縛りがない環境で働く方達のワークスタイルである。

【コワーキングスペース】



オフィスの場所をシェア

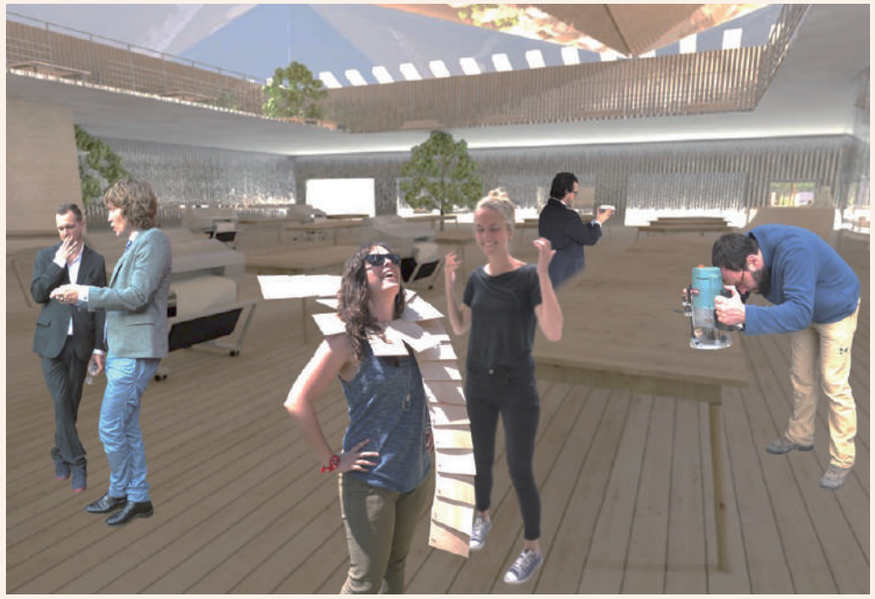
コミュニティのシェア
新しいビジネスの展開
地域との繋がり

町工場の方同士の交流
学生と地域住民の交流
新しい発見

職人や企業の方が主に利用するスペース

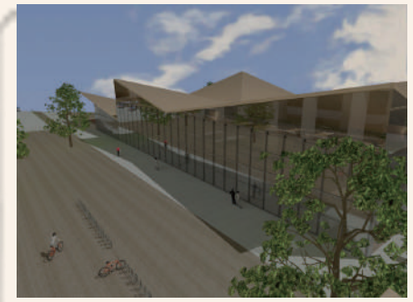
いろんな人が利用でき、交流が生まれるスペース
職人が一人は付き、工具などのやり方を教えてくれる

誰でも利用できるスペース
勉強やおしゃべりなど用途はなんでも良い

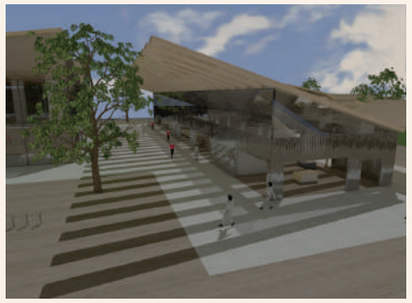


「何ができて、何をしたくて、何で困っているか」といった状況を可視化し、見た人にシェア、新しいつながりが生まれる

1階　平面図

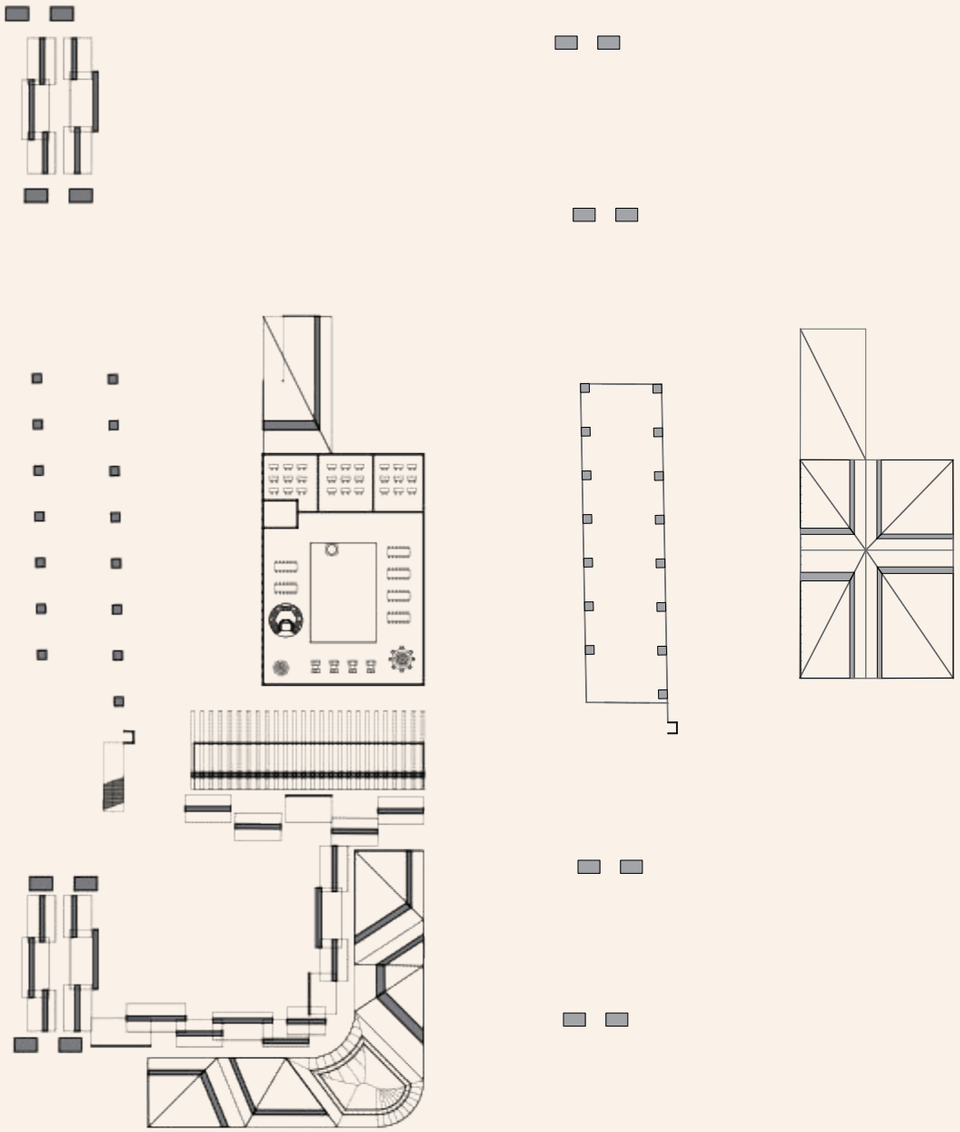


北側　コワーキングスペースの建物



中央　物販店舗

南側　カフェ入り口



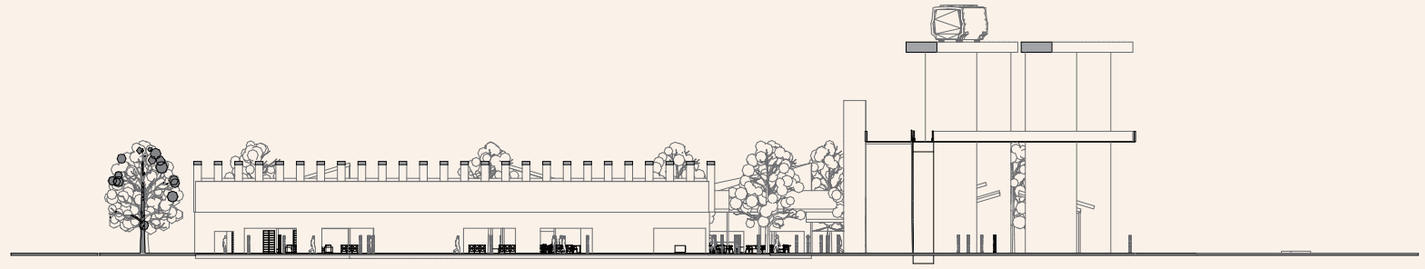
2階　平面図

3階　平面図

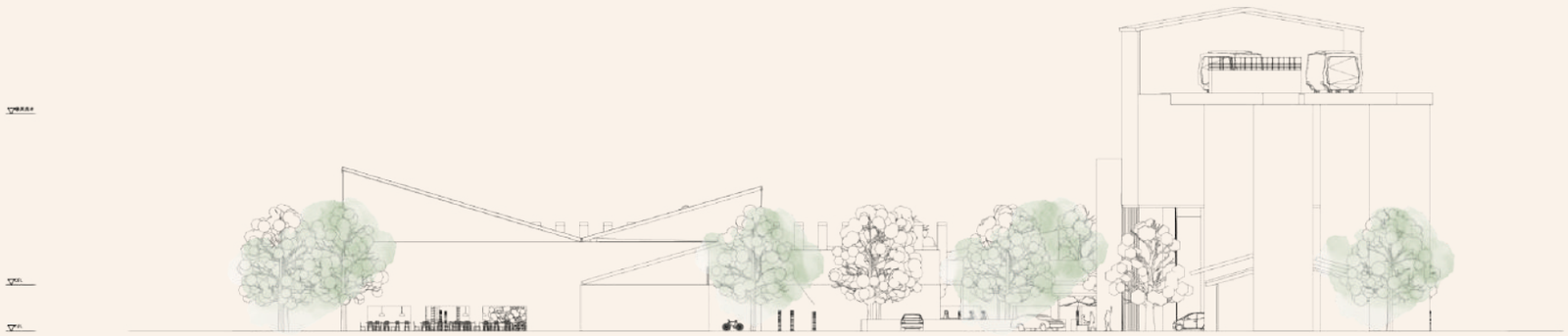
コワーキングスペースの２階で作業をする人たち

南側より　カフェ前を歩く人

A-A’断面図



B-B’断面図



北側 立面図

東側 立面図